

新たなフィールドで

11月5日(土)、日本初のプロバスケットボールリーグ「bjリーグ」が開幕!仙台で3つ目のプロスポーツチームとなる「仙台89ERS」が始動しました。

MELONは、この間仙台スタジアムやフルキャストスタジアム宮城とともに活動してきたスポーツボランティア団体「SV2004」と連携し、89ERSの試合でもごみ分別・減量活動のサポートをすることになりました。

仙台市体育館の競技場内はもともとが飲食禁止ですが、今回プロの試合ということで特別に飲食の許可が出たとのこと。しかし、それも2階席のみ、フロアの汚れ防止のために1階アリーナ席は飲食不可となっています。現在出店している売店も今のところ2店舗のみです。当然ですが、サッカーや野球とは規模が全く違うのでごみの量も少ないものです。

スポーツの試合会場でも、ごみ削減などの環境活動の取り組みが常識となるよう、さまざまなフィールドで活動を続けていくことが大事です。今回の

ケースはごみ減量のモデルケースを確立するにはちょうど良い規模なのかもしれません。

冬のスポーツなのでこれからは寒さとの戦いもありますが、皆さんも89ERSの試合にお越しの際にはエコステーションでがんばるボランティアさんに声をかけてあげてください。よろしくお願いたします!



エコステーション準備中



MELON20周年をめざせ!

第9回目の執筆者

むろみ のぶ
室實信さん

(「里山道場」主宰)

50人リレートーク

田舎暮らしの「三種の神器」腰なた、ノコギリ、ロープをうたい文句に、「里山道場」を主宰しております。田舎の昔暮らしを実践して知恵を生み出す百姓暮らし体験を楽しんでもらっております。昔の百姓さんは知恵の集団でした、百の巧と言われたのは百の知恵が備わっていたからだと思います。それは子どもの頃から腰なた、ノコギリ、ロープを巧に使って遊んでいたことが、後に、世界に通じる日本人が出来上がったのだと思います。しかし近年の田舎でも、子ども達の遊びの世界には知恵を生み出す遊びがなくなり、おまけに教育は知識の詰め込み教育に変わってしまい、能力の片輪だけが動いている様な状態であります。

将来の日本は、世界をリードしてきた日本から、知恵の部分で欠落するのは間違いなく生じてくるでしょう。このような事を踏まえ、子どもの頃に戻って楽しんでもらえる里山道場は、里山の保全と休耕

田再耕作で定年帰農者を増やし、中山間地域での知恵で生きる地域づくりを目指して活動を始めました。人は自然の中で遊ぶのが一番楽しく、生きている事も実感できるし、心身の健康を取り戻す効果が田舎暮らしにあると気づく人が増えてきました。

里山は、いわば人という生き物も含めた大きな一つのビオトープ。山、川、里の循環を再生し、そこで、かつて生活した人間と生き物が甦る地域づくりを目指し、道場プランを立てゲストを迎えております。道場の体験メニューは、薪割り、里山の散策、川遊び林業農業と田舎丸売りであります。人は自然を糧に助け合いながら生き残るしかすべはない。自分を守れなければ人は助けられない、生き残る最低限の知恵こそ人間が学習すべき基本であり、それを身につける体験こそが里山道場の目標であります。そして究極の目標は、里山から流れ出る豊かな湧き水の再現であります。

次号予告

次は、橘博昌さん。国内外、約1600ヶ所に土地本来の森作りを進めている、宮脇氏に感銘を受け氏の団体の会員に所属。地元和歌山でもその森作りを進めようと活躍中。

